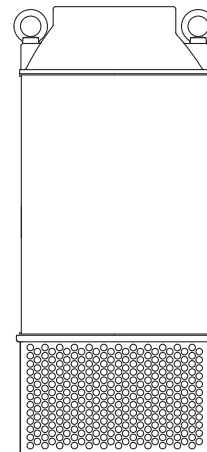


大切な「水」をあなたへ……●川本ポンプ

軸流式排水水中ポンプ

D U A 形 取扱説明書



このたびは、軸流式排水水中ポンプD U A形をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

また、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

< 目 次 >

1	はじめに	2	5	電気工事	6
2	仕 様	2	6	運 転	7
3	製品の構成	3	7	保守・点検	8
4	据付・配管	3	8	故障の原因と対策	10

▲ 特に注意していただきたいこと

- 適用される法規定（電気設備技術基準・内線規程・建築基準法、水道法など）に従って施工してください。法規定に反するだけでなく感電・火災・落下・転倒によるけがなどの原因になります。
- 人が触れることが想定される所（浴槽、プール、池など）では使用しないでください。漏電し感電する恐れがあります。
- 接地工事は通電前に必ず行ってください。アース線を確実に取り付けないで運転すると故障、漏電・感電・火災の原因になります。また、アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合、感電する恐れがあります。
- ポンプをケーブルで吊り下げないでください。ケーブル等が破損し、感電・火災の原因になります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、渇水などによる空運転などの恐れがあります。
- 修理技術者以外の方は、分解・修理・改造やケーブル交換を行わないでください。不備があると、故障・破損・感電・火災の原因になります。
- 点検・交換の際は、必ず電源を遮断して作業を実施してください。漏電・感電やけがの恐れがあります。

本文中の関連箇所にも製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されています。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

▲警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

▲注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

1 はじめに

ポンプがお手元に届きましたら、下記をお調べください。

1. 1 ご注文通りのポンプか、銘板を見てご確認ください。
形式、口径、全揚程、周波数、相数、定格出力など
1. 2 輸送中に破損した箇所や、ボルト・ナットなどのゆるみはないか、ご確認ください。
1. 3 ご注文の付属品 (P3 3. 2参照) が全てそろっているか、ご確認ください。

[注記]

1. ご使用前に取扱説明書を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。取扱説明書には危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されております。
※上記をお守りいただけないと責任を負いかねます。
2. 本製品は、日本国内用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。
3. 適用範囲外での使用、注意書きなどの不遵守、不当な修理・改造、天災地変に起因するもの、設置環境（電源異常・異物・砂など）によるもの、法令・省令またはそれに準じる基準などに不適合のもの、不慮・故意による故障・損傷のもの、消耗部品の交換、転売による不具合などは保証対象外となる場合があります。
4. 弊社にお問い合わせの際は、『形式』及び『製造番号』をご連絡ください。
5. 不要な部品及び梱包材などの廃棄方法については、各自治体にご確認ください。

《不具合な点がございましたら、お手数でもご購入先へご照会ください》

2 仕様

▲ 警 告

- 決められた製品仕様以外では使用しないでください。感電・火災、漏水などの原因になります。

▲ 注 意

- 用途や液質により発錆や腐食・溶出を許容できない場合は注意が必要です。ポンプや設備全体を含め選定・検討してください。思わぬ被害の恐れがあります。
- 用途に合った商品をお選びください。不適切な用途で使うと事故の原因になります。
- 危険・警告・注意ラベル類には人身への危害または財産への損害を引き起こす可能性のある事項が記載してありますので必ず遵守ください。守らないと機器が故障したり感電、火災、けがなどの原因になります。
- 仕様液質として記載のない液体などには使用しないでください。ポンプが故障し、漏電・感電・火災の原因になります。
- 生物（養魚場・生け簀・水族館など）の設備、または重要設備に使用する場合は、予備機を準備してください。ポンプ故障により、酸欠や水質悪化などが発生し、生物の生命に影響を与える恐れがあります。
- 食品関連の移送に使用する場合や食品関連への給水に使用する場合、使用材料のご確認など十分にご注意ください。異物が混入する恐れがあります。
- 銅合金をさらう生物などへの使用は避けてください。生物の生命に影響を与える恐れがあります。

揚 液	液 質	農事用水、河川水 (pH 5~9)
	液 温	0~40℃ (但し、凍結なきこと)
含 有 固 形 物 の 径	φ 8mm以下	
設 置 場 所	水 中	
設 置 条 件	立置き (横置き不可)	
電 源 電 圧 変 動	定格電圧の±10%以内	
三 相 電 源 相 間 不 平 衡 率	3%以下	
ポ ン プ 水 没 深 さ	8m以内	

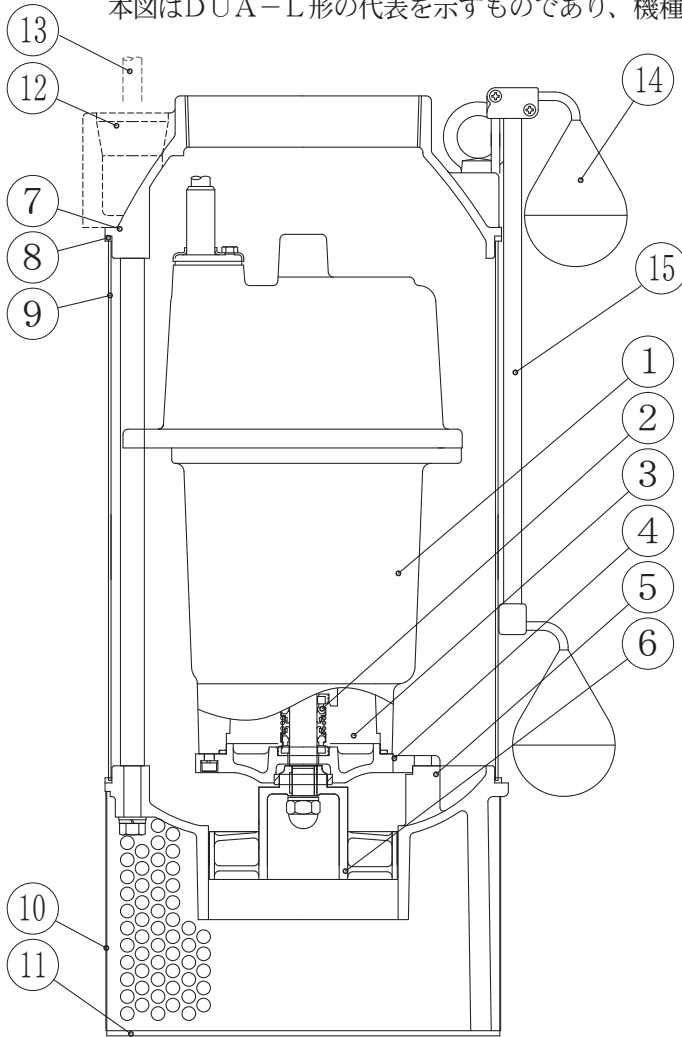
DUA形 : 非自動運転型
DUA-L形 : 自動運転型

(注) 海水、有機溶剤にはご使用になれません。
インバータは誤動作の恐れがあるため、
使用しないでください。

3 製品の構成

3.1 構造図

本図はDUA-L形の代表を示すものであり、機種により本図と多少異なるものもあります。



No.	名称	備考
1	モータ	
2	メカニカルシール	
3	封入油	流動パラフィン
4	ケーシングカバー	
5	吸込ケーシング	
6	インペラ	
7	吐出しケーシング	
8	パッキン	
9	管ケーシング	
10	ストレーナ	
11	ベース	
12	キャップ	
13	ケーブル	
14	フロートスイッチ	-L形のみ
15	ロッド	-L形のみ

(注) 仕様、構造等は予告なく変更する場合があります。

3.2 標準付属品

名称	数量
ロープ (6m)	1
銘板※	1
取扱説明書	1

※予備銘板：地上部の見やすい位置に貼り付けてください。

4 据付・配管

▲ 警告

- 荷下ろし、搬入、据付で本製品を吊り下げる場合は、カタログ、据付図にて質量を確認の上、正しく行ってください。また、吊り具の定格荷重以上の製品は吊らないでください。吊り下げが不完全な場合、落下によるけがの原因になります。
- 据付は取扱説明書に従って確実に行ってください。据付に不備があると漏電・感電・火災、落下・転倒によるけがの恐れがあります。また、振動の原因になります。
- 適用される法規定（電気設備技術基準・内線規程・建築基準法、水道法など）に従って施工してください。法規定に反するだけでなく感電・火災・落下・転倒によるけがなどの原因になります。

- ローソク、たばこ、炎、火花などの火気を近付けないでください。火災の恐れがあります。
- 人が触れることが想定される所（浴槽、プール、池など）では使用しないでください。漏電し感電する恐れがあります。
- 樹脂、ゴム部品は現場焼却しないでください。燃やすと有害なガスが発生する恐れがあります。処理方法は各自治体にご確認ください。
- 爆発性雰囲気中では使用しないでください。火災の恐れがあります。

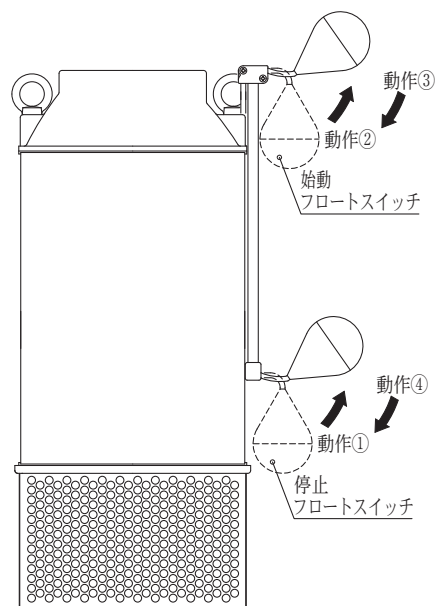
▲ 注 意

- ケーブルを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。ケーブルが破損し火災・感電の原因になります。
- ポンプに付属の電源ケーブルは適切な長さに切り、絶縁処理をしてください。束ねておくとケーブルが発熱し、断線、断水や火災の原因となります。
- 機器に衝撃を与えたり、転倒させないでください。破損する恐れがあります。
- 万一のポンプの停止に備えポンプの予備機を準備してください。ポンプの故障により断水し、設備が停止する恐れがあります。
- 設備によっては吐出し側に用途に応じた適切なフィルタなどを設け、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後、使用ください。製品製造時の切削油、ゴムの離型剤、異物などが配管系に含まれる切削油、異物などが扱い液に混入する恐れがあります。
- ポンプが異物を吸い込まないように設置ください。異物を吸い込み破損する恐れがあります。
- 機器の上に物を載せたり、人が乗ったりしないでください。機器の破損や転倒してけがをする恐れがあります。
- 配管のネジ部にはシール剤を使用して、水漏れのないように確実に施工してください。確実に施工できていないと水漏れの原因になります。
- 据付、点検などの作業を行う前に、周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。
- 配管内に空気溜りができないようにしてください。配管内に空気溜りがあると、ポンプが正常に運転しない恐れがあります。
- 本製品を包装しているビニール袋をかぶらないでください。窒息の恐れがあります。
- 梱包は釘やホッチキスの針などに注意して開梱してください。けがをする恐れがあります。

4. 1 据付け前に

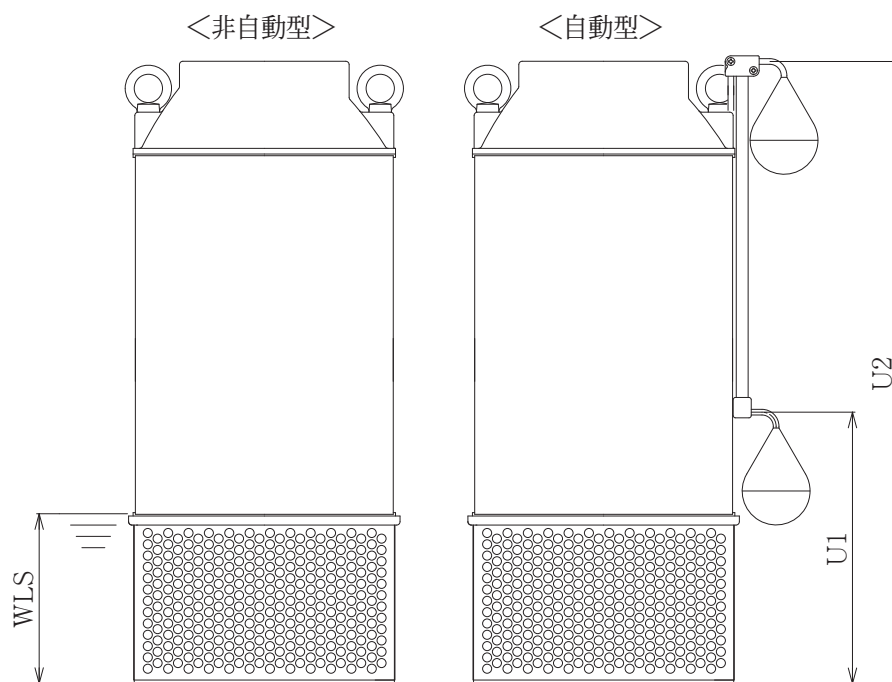
1. ケーブルの導体（三相：U、V、W）とアース（E）間の絶縁抵抗を測定して、20MΩ以上あることをご確認ください。
2. 自動運転機種のフロートスイッチ動作確認を下記を参考に行ってください。
DUAL形はフロートスイッチおよび制御回路（内蔵）により、ケーブルを電源に接続するだけで、自動運転を行うことができます。
電源を接続した後、次の要領で行ってください。
フロートの各動作は、2秒以上保持してください。2秒以上保持しない場合、正常に動作確認ができない恐れがあります。
また、一連の動作確認は1分以内で行ってください。
モータが発熱し、管ケーシングが高温になりやけどをするおそれがあります。

- (1) DUA-L形：右図をご参照ください。
1. すべてのフロートスイッチを下向きにしてください。
 2. 停止フロートスイッチ、始動フロートスイッチの順に持ち上げてください、ポンプが始動します。
【動作①、②】
 3. 次に始動フロートスイッチを下向きにしてください。ポンプの運転が継続していることを確認してください。
【動作③】
 4. 次に停止フロートスイッチを下向きにしてください。ポンプが停止します。
【動作④】



4. 2 据 付

1. ポンプは平坦で丈夫な場所に設置してください。運搬ならびに据付時にはケーブルを絶対に引っ張らないでください。ロープなどを取り付けて据付を行ってください。
2. 槽流入水の影響を受ける場所にポンプを設置しないでください。また、配管、ケーブル、ロープ等がポンプフロート等の動作の妨げにならないように設置してください。
3. ポンプが沈殿物等で埋まる可能性がある場合は、ポンプを床面より高くして設置してください。
4. 運転水位は、下記の通りです。



DUA WLS：連続運転可能最低水位
(この水位以下運転しないでください。ポンプが正常に動作しません。)

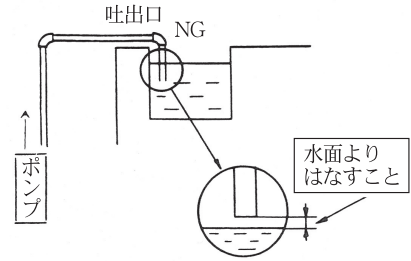
DUA-L U1：停止水位 U2：始動水位

形 式	非自動型	自動型	
	WLS	U1	U2
DUA125-0.75	150	270	550
DUA150-1.5	200	420	700

※自動型には形式の後ろに「L」が付きます。

4. 3 配管

1. ポンプの据付け位置は槽の壁面がポンプの運転の妨げにならないように設置してください。
2. 配管はできるだけ短く曲がりのないようにし、配管の末端を水中に入れないでください。（サイフォン現象で水が逆流します。）
3. 槽内部は目視で点検できる位置にポンプ部や液面制御器を設置してください。
4. 流入管はポンプの吸込口にエアが巻き込まれない位置に設置してください。揚水不能、振動の原因となります。また、配管、ケーブル、ロープ等がポンプの動作の妨げにならないように設置してください。
5. 液面制御器（L形のフロートスイッチ含む）に流入水が直接当たらないように設置してください。誤作動の原因になります。



5

電気工事

▲ 警 告

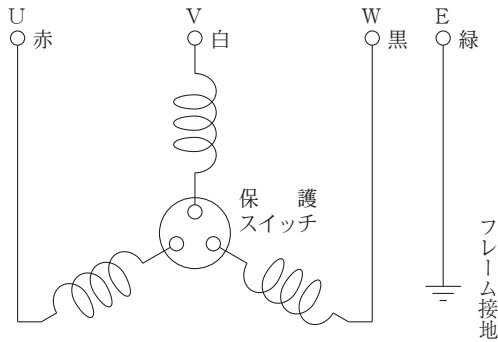
- 電気工事は、「電気設備技術基準」及び「内線規程」に従い専門技術者により確実に施工してください。配線、接続に不備があると、故障・漏電・感電・火災の原因になります。
- 接地工事は通電前に必ず行ってください。アース線を確実に取り付けないで運転すると故障、漏電・感電・火災の原因になります。また、アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合、感電する恐れがあります。
- 本製品専用に漏電しゃ断器を取り付けてください。漏電・感電・火災の原因になります。
- タコ足配線（複数の電気機器を接続）は避け、専用配線にて施工してください。漏電・感電・火災の原因になります。
- 配線接続部・結線部・端子部などのほこりを除去してください。ほこりの付着などを放置すると発熱し、火災の原因になります。
- 電源投入前に配線接続部・結線部が緩んだり外れたりしていないか、確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、火災・感電の原因になります。

▲ 注 意

- ケーブルや制御線を同一管内またはダクト内に併設させないでください。本製品や他の機器が誤動作する恐れがあります。
- ケーブルを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。ケーブルが破損し火災・感電の原因になります。
- ポンプに付属の電源ケーブルは適切な長さに切り、絶縁処理をしてください。束ねておくとケーブルの発熱により断線し、断水や火災の原因になります。

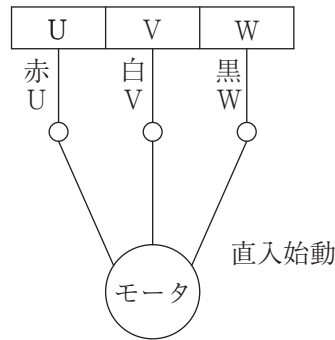
5. 1 制御盤にてポンプを運転する場合は、川本製（ECD形※）の使用を推奨します。
※特殊仕様となりますので、最寄りの弊社営業所へお問合せください。
5. 2 制御盤にて水位制御運転を行う場合の結線方法は、制御盤の取扱説明書を参照してください。
5. 3 ケーブルの継足しはしないでください。

5. 4 モータの回路図



※アースはD種の接地工事にて、
 確実に行ってください。

5. 5 結線方法 下図に従い結線してください。



6 運 転

▲ 警 告

- 配線を取り付けたり取り外したりする場合、必ず電源を遮断して作業を実施してください。感電する恐れがあります。
- 電源を投入後及び通電状態にて制御盤の充電部やモータ端子、ケーブル先端部などに触れないでください。漏電・感電・火災の原因になります。
- 停電の場合は電源スイッチを切ってください。復電時に製品及び設備機器の破損や急にポンプが運転してけがをする恐れがあります。
- 運転中は吸込口に手足などを近づけないでください。吸い込まれてけがをする恐れがあります。
- 電源を投入した後は、濡れた手で電源や操作スイッチなどをさわらないでください。感電やけがをする原因になります。
- 保護スイッチ（モータ焼損防止装置）の作動中に分解・点検を行わないでください。ポンプまで通電しており、予告なく再始動しますので、感電やけがをする原因になります。
- 長時間の連続運転や激しい始動反復条件下では使用しないでください。メカニカルシールからの漏れやポンプが故障する恐れがあります。

▲ 注 意

- 定格電圧以外では使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 正規の回転方向であることを確認してください。誤った回転方向で運転すると、振動などによりインペラナットやボルトがゆるみ、事故の原因になります。
- 運転中は回転部分に触れたり、開口部に指や異物などを入れないでください。感電、破損、けがの原因になります。
- 運転中、停止直後はポンプに触れないでください。高温になっている場合がありますので、火傷をする恐れがあります。

- 長期間使用にならない場合は電源を遮断してください。絶縁劣化による漏電・感電・火災の原因になります。
- 空運転、一定時間の縮切運転、取扱液中に空気を混入させないでください。ケーシング・軸受・軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがあります。また、ポンプが過熱し火傷をする恐れがあります。
- 50Hz仕様のポンプを60Hzで運転しないでください。過大圧力による破損、過負荷によるモータなどの焼損事故の恐れがあります。60Hz仕様のポンプを50Hzで運転しないでください。ポンプの性能が低下します。
- バルブ類は正規の状態で使用ください。正常に動作できずユニット破損の恐れがあります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には、「据付」「運転」の順に従い、試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、落水などによる空運転などの恐れがあります。
- 機器の運転は、仕様範囲内で行ってください。仕様範囲外での運転は、機器の故障や事故の原因になります。
- 試運転時は、ポンプ・配管内の空気抜きを十分行ってください。ポンプがエアロックを起こしたり、温度上昇し、故障・事故につながる恐れがあります。
- メカニカルシール室の封入油が適量か確認してください。不足したままで運転しますと、メカニカルシールの寿命が著しく低下します。（封入油量7.3項に記載）
- 気中で1分以上運転しないでください。モータの温度が急激に上昇し、焼損の原因になります。
- モータに保護スイッチを内蔵していますので、インバータ運転はしないでください。オートカットの誤動作の原因になります。
- ストレーナに異物（砂や袋など）が詰まっていないことを確認してください。ストレーナが閉塞するとポンプの性能が低下します。

6. 1 始動する前に

1. 漏電しゃ断器の容量、電源電圧および配線が正しく行われているかご確認ください。
2. ポンプを連続運転可能最低水位（4.2をご参照ください）以上水没させてください。それ以下の場合、保護スイッチが作動することがあります。

6. 2 試運転

1. 電源を入れポンプの回転方向をご確認ください。モータが逆回転の場合はストレーナから気泡が出ます。逆回転の場合は電源を切って電源ケーブル3本のうち2本を入れ替えてください。
2. 吐出し配管から水が勢いよく出るのをご確認ください。また、圧力、電流、運転音および振動などの異常がないかご確認ください。

6. 3 運 転

1. 連続運転可能最低水位で運転を続けた場合、保護スイッチが作動し、ポンプが停止する場合がありますが、故障ではありません。
2. モータの起動回数は10回／1時間以内で行ってください。高頻度の運転はモータが損傷する恐れがあります。

7

保守・点検

▲ 警 告

- 動かなくなったり異常（ケーブル破れ、コゲ臭いなど）がある場合、直ちに運転を停止して電源を遮断し、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に点検あるいは修理を依頼してください。異常のまま運転を続けたり、修理に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。
- 修理技術者以外の方は、分解・修理・改造やケーブル交換を行わないでください。不備があると、故障・破損・感電・火災の原因になります。
- 点検・交換の際は、必ず電源を遮断して作業を実施してください。漏電・感電やけがの恐れがあります。
- 機器を移動し再設置する場合は、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。据付に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。

- 制御盤などの電気部品の点検・交換時には、電源遮断後テスターなどで無電圧になっていることを確認してから作業を実施してください。感電やけがの恐れがあります。
- モータの絶縁抵抗値が1 MΩ以下に低下した場合、すぐにご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に連絡してください。モータが焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。
- 修理の際は当社純正部品を使用してください。純正部品以外を使用した場合、故障及び事故の原因になります。また、正常な機能を発揮できない恐れがあります。
- 電源を投入した後は、濡れた手で電源や操作スイッチなどをさわらないでください。感電やけがをする原因になります。
- 保護スイッチ（モータ焼損防止装置）の作動中に分解・点検を行わないでください。ポンプまで通電しており、予告なく再始動しますので、感電やけがをする原因になります。
- 電源投入前に配線接続部・結線部が緩んだり外れたりしていないか確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、火災、感電の原因になります。

▲ 注 意

- メカニカルシール室の封入油が適量か確認してください。不足したまま運転しますと、メカニカルシールの寿命が著しく低下します。
- 分解・点検時には内部の圧力がゼロであることを確認してください。水が噴き出し事故やけがをする恐れがあります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には、「据付」「運転」の順に従い、試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、漏水などによる空運転などの恐れがあります。
- 長期間安心して使用いただくために定期点検と日常点検両方の実施をお勧めいたします。点検を怠ると、ポンプの故障、事故などの原因になります。定期点検についてはご購入先、もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 定期的に保護継電器の動作確認を行ってください。事故時に正常動作せず、感電や故障の恐れがあります。
- 消耗部品は定期的に交換を行ってください。劣化・摩耗したまま使用した場合、水漏れや焼付き・破損など、事故の原因になります。定期点検、部品交換などは、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に依頼してください。
- 圧力計・連成計などを使用の際は、測定時以外はコックを閉じてください。常時開けておくと圧力計・連成計などが故障する原因になります。
- 点検は点検項目に従って必ず行ってください。故障を未然に防止できず、事故につながる恐れがあります。
- ストレーナに異物（砂や袋など）が詰まっていないことを確認してください。ストレーナが閉塞するとポンプの性能が低下します。

7. 1 日常点検

確認事項		判定基準
モータ	絶縁抵抗	絶縁抵抗1 MΩ以上
	玉軸受	運転音・振動が初期より変化のないこと
電流		銘板電流値以下
電圧		定格電圧の±10%以内

1. 異常を早く発見するためには日々の変化を知ることが大切です。そのためにも運転日誌を付けられることをお勧めします。

7. 2 点検は運転時間3,000時間毎、または半年に一度毎に行ってください。

確認事項	判定基準
メカニカルシール 封入油	封入油の白濁・黒ずみ及び揚水の侵入の無いこと

7. 3 消耗部品

下記の部品は消耗部品です。交換時の目安に従って部品を交換してください。

確認事項	交換時期の目安 (注1)	状態の目安
Oリング (パッキン)	分解・点検時毎	-
メカニカルシール	1～2年又は5,000時間の どちらか早い時期	封入油が白濁したり、黒ずんでいるとき
玉軸受	3年	軸受が過熱したり、異音・異常振動が発生するとき
封入油	6ヶ月	白濁、もしくは黒ずんでいるとき
進相コンデンサ (注2)	10年	-

出力 (kW)	封入油 (L) ※
0.75	0.22
1.5	0.45

(注1) 表中の交換時期の目安は期間内の正常な動作を保証するものではありません。
ご使用状況によっては交換時期が早まる場合がございますのでご注意ください。

(注2) 現地で取り付けた場合につきましても交換時期の目安以内で交換してください。

※規定以上注油しますと、メカニカルシール室の内圧上昇によりシール寿命が著しく低下します。

8 故障の原因と対策

▲ 警告

- 動かなくなったり異常 (ケーブル破れ、コゲ臭いなど) がある場合、直ちに運転を停止して電源を遮断し、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に点検あるいは修理を依頼してください。異常のまま運転を続けたり、修理に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。
- 点検・交換の際は、必ず電源を遮断して作業を実施してください。漏電・感電やけがの恐れがあります。
- 修理技術者以外の方は、分解・修理・改造やケーブル交換を行わないでください。不備があると、故障・破損・感電・火災の原因になります。

8. 1 保護スイッチ

1. このポンプは保護スイッチ (モータ焼損防止装置) を内蔵していますので、次のような場合、ポンプが停止することがあります。

- ・ 電圧が極度に変動した場合
- ・ 周波数が極度に変動した場合
- ・ 欠相運転、あるいは拘束運転になった場合
- ・ 連続運転可能最低水位以下で連続運転した場合

保護スイッチは一定時間後に自動的に復帰し、予告なくポンプが運転を始めるので、点検の際には必ず電源を切ってください。

8. 2 故障の原因と対策

現象	原因	対策	本文ページ
モータが回転しない	モータが故障している	点検・修理・交換する	8、9
	電源関係に異常がある	点検・修理する	6、7
	単相結線になっている	結線を正しく行う	6、7
	擺動部に異物等噛み込んでいる	点検・修理・交換する	—
	保護スイッチが動作している	8. 1 保護スイッチの項参照	10
	漏電しゃ断器が切れている	漏電しゃ断器を入れる	6
	フロートの動作が妨げられている	障害物を除去し、フロートの動作を確認する	4、5
モータは回転するが 水が出ないもしくは 規定吐出量、規定揚程が 出ない	インペラに異物が詰まっている	点検・修理・交換する	—
	ポンプ内に異物が詰まっている	点検・修理・交換する	—
	配管が詰まっている	配管内部を点検し、異物を除去する	—
	実揚程が高すぎる	計画を再検討する	—
	配管損失が大きすぎる	計画を再検討する	—
	インペラが摩耗している	点検・修理・交換する	—
	インペラに異物が詰まっている	異物を除去する	—
	ストレーナがふさがっている	異物を除去する	—
	モータが逆転している	結線を正しくする	6、7
水位が低く、エアロックしている	停止水位を調整する	5	
過負荷（過電流）になる	インペラに異物が詰まっている	点検・修理・交換する	—
	ポンプ内に異物が詰まっている	点検・修理・交換する	—
	電圧の低下、各相のアンバランスが大きい	点検・修理する	2、6、7
	モータが不良である	点検・修理・交換する	8、9
	液の比重、粘度が大きい	計画を再検討する	2
	回転部分が片当たりしている	点検・修理・交換する	—
ポンプが振動する	インペラに異物が詰まっている	点検・修理・交換する	—
	ポンプ内に異物が詰まっている	点検・修理・交換する	—
	軸が曲がっている	点検・修理・交換する	8、9
	軸受が破損している	点検・修理・交換する	8、9
	モータが逆回転している	結線を正しくする	6、7
	配管がしっかり固定されていない	配管をしっかり固定する	—
ポンプが自動運転しない (自動型の場合)	フロートスイッチの動作が妨げられている	障害物を除去し、フロートの動作を確認する	4、5
	フロートスイッチが故障している	点検・修理・交換する	—
	ポンプ内蔵の制御部、または制御盤が故障している	点検・修理・交換する	6

故障には予想外のことがあります。異常を発見したら速やかに対策することが大切です。故障の原因が分からないときは、ご購入先、もしくは最寄りの弊社営業所にご連絡ください。ご連絡の際は、ポンプ形式、製造番号、故障（異常）の状況をお知らせください。



コンフォート アース

Comfort Earth® 水を通じて 地球環境を 考える

株式
会社

川本製作所 <https://www.kawamoto.co.jp>

本 社 〒460-8650 名古屋市中区大須4-11-39

☎052-251-7171 (代)

岡崎工場 〒444-8530 岡崎市橋目町御領田1

☎0564-31-4191 (代)

検査合格証
株式会社 川本製作所

検
査

検査
責任者